

論文内容の要旨

報告番号		氏名	明珍 薫
Carotid Artery Stenting Using a Closed-Cell Stent-in-Stent Technique for Unstable Plaque 不安定プラークを伴った頸動脈狭窄症に対するクローズセルステントを用いたステントインステント法による頸動脈ステント留置術			

論文内容の要旨

目的

Plaque protrusionを起こさずに不安定プラーク症例で頸動脈ステント留置が施行できるかを検討する。

対象と方法

MR plaque imagingで不安定プラークと診断された頸動脈狭窄症、連続35病変が対象。手技はembolic protection deviceを留置、2枚のクローズセルステントをステントインステントで留置、控えめな後拡張を行った。

検討項目

1) 手技的成功率、2) 術中のplaque protrusionの発生率、3) 術後30日以内のstroke発生率、4) 術後48時間以内の拡散強調像での同側虚血性病変の発生率、follow upでの5) 同側の脳卒中、6) 再狭窄の発生率について前向きに検討。

結果

1) 100%、2) 0%、3) 0%。4) 29% (無症候性病変)。平均11.6ヵ月のfollow upで、5) 0%、6) 無症候性の再狭窄と閉塞1例づつ(6%)認めた。

結語

不安定プラークを伴った頸動脈狭窄症に対するクローズセルステントを用いたステントインステント法による頸動脈ステント留置術は、plaque protrusionの予防および周術期虚血性合併症予防に有用である可能性が示唆された。